

居座りやいたずら、窃盗など発生

快適さ向上の裏で問題

車いす利用者などが使う身障者用トイレについて、全ての人が快適に使えるユニバーサルデザインへの導入が進んでいる。入り口の開口を広げて、人工肛門や人工膀胱(ぼうこう)を付けた人(「オストメイト」)がたまった尿を捨てたり人工肛門などを洗う流し台などが設置されるようになった。快適さが向上する一方で、配慮が足りない設備や、商業施設や公園などの身障者用トイレでは、居座りやいたずらなどが発生。管理者側が頭を悩ませるケースもある。利用者や管理者が、互いに納得できる身障者用トイレのあり方を探る。

「車いすのまま入れない」 設計段階での不具合も

■完璧な設備は求めない
「充実した設備というよりも、車いすのまま入れられる広さや、ドアの横幅の確保が大切」。豊橋市を中心に東三河170カ所以上の身障者用トイレの所在地や設備、広さなどのデータをまとめた「車いすトイレマップ」を発行し、ホームページでも随時公開する。車いすを楽しむ会の鈴木より子会長(56)は、車いす利用者としてこの立場での考えを語った。

鈴木会長によると、豊橋市内のあるトイレでは、手すりやオストメイト用設備が整っているのに「入ろうとしたりドアの開口が狭くて、車いすのまま入ることができなかった」という。「トイレの設計をする段階で、車いすが通れる幅を計算に入れてもらわないといけない。設計士に車いす利用者の意見を聞いてもらう活動も、必要なかもしれない」との認識を示した。

クローズアップ

身障者用トイレのあり方

は困ることが多い。車いすやオストメイトの人が用を足すのにかかる時間は最短で15分。体調不良の場合は1時間近く利用することになる。トイレの外で他の人が待つ声が聞こえたり、申し訳ない気持ちになる。焦りも感じる」と体験を話し、「数を増やすというより、数回先に別のトイレがあるなど、案内表示がトイレのドア付近にあるだけでも、ゼロから探さなくてもいいので、とても助かる」と訴えた。

同市内の公園にあるトイレについても触れて「トイレレットペーパーが無かったり、鍵が開いていてもホームレスと思われる人が中にいたりするなどの困ったこともある」と述べ、「100%すべて整った施設を求めたいのではないし、権利の主張でもない。生きていく上で必要なトイレなので、健常者の人が気づかない不具合などは、車いす利用者として意見をを出していきたいし、求められれば改善点などを指摘する活動も積極的に行いたい」と意欲を示した。

■使う人のモラルも影響
豊橋市内の公園には約270のトイレがあり、このうち30が身障者用トイレ。その多くは、県が定めた「入りにやさしい街づくりの推進に関する条例」に従って1998年に降に整備、改築した。現在は、2006年に国が定めた「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)」に沿い、ドアは横開きで、入り口の幅は80センチ以上の基準で整備している。

管理する市公園緑地課によると、清掃は委託業者によって、週1〜2回行い、水が流れるなど設備面の確認もしている。ホームレスとみられる長時間居座りの通報は、2013年度に3件。近所の人からの連絡がほとんどで、職員が現場対応に向かい、生活保護の受給方法などを紹介しているという。

期待に行動あるモラルや配慮



清掃担当者「清掃回数を増やせば衛生面が保たれるが、その分税金を使うことになる。財政状況が厳しい中、現状で回数を増やせない」と厳しい事情を話した。

トイレレットペーパーについては、清掃業者や地域のボランティアが補充することになっているが「補充しすぎてなくなってしまう」という報告もあり、盗まれているとみられるという。「利用者がどれだけきれいに使つか、汚したらきれいにしてから返室することなど、モラルのある行動に期待するしかない」と話した。

民間商業施設の管理者は、居座り対策について「いたずら(いたづら)を嘆く。警備員のパトロールや、長時間入室の場合は確認に向かう」などの対策を講じているという。

■安心して外出できるように
車いす利用者は「トイレの位置確認など事前にシミュレーションしないと、安心して外出できない」という。設備が整っても、使えない設備になったり意味がない。さまざまな人が利用することを考えて、設備を作る際の配りや維持管理、使用の際の配慮が必要だ。

(斉藤理)

対策は「いたちごっこ」
管理者頭悩ます